

# やなか通信

さいたま  
市議会議員  
やなか信人

2017年  
冬

発行責任者：谷中信人 公明党議員室：浦和区常盤 6-4-4 (☎829-1812) 自宅：浦和区瀬ヶ崎 1-4-1 (☎886-2464)



## 国立長寿医療研究センター他を視察

現在私が委員長を務めている保健福祉委員会では、11月9、10日にかけて、調査研究テーマ「孤立を防ぎ、誰もが健康寿命を延ばせるしくみづくり」に沿った行政視察を愛知県と大阪府で実施いたしました。最先端の現場に足を運ぶことで、多くの発見や学ぶべき点があり、さいたま市のー層の福祉増進に向けて、大変に実りある視察となりました。

視察  
レポート

## さいたま市のさらなる福祉増進へ 孤立防ぎ、健康寿命延ばす事例に学ぶ

最初に視察した国立長寿医療研究センター（愛知県大府市）は、「高齢者の心と体の自立を促進し、健康長寿社会の構築に貢献」するために設立され、認知症予防に向けた先端医療の研究や診察などを行っています。



国立長寿医療研究センター「もの忘れセンター」にて

お話を伺った島田裕之・予防老年学研究部長は、「軽度認知障害（MCI）と判定された方の半数近くが正常に戻るという追跡調査の結果が出ており、考え方を駆使して発症リスクを減らすべきである」と強調されていました。また、この研究所で開発された、運動と脳トレを組み合わせた認知症予防モデルの「コグニサイズ」について、運動しながら脳を使う認知トレーニングエルゴメーターの紹介があり、先端研究に触れる新鮮な発見がありました。

世界最大級の認知症外来である「もの忘れセンター」では、認知症対策には診断データを集積した大規模データベースの構築が重要との説明がありました。これらの取り組みは、健康寿命を延ばす上で大切な観点であり、さいたま市でも検討が必要であると強く感じました。

続く大阪府豊中市、同市社会福祉協議会の視察では、市社協の社会福祉法人取得から、阪神淡路大震災を経て市と共同で行っている地域福祉計画の作成、現在の諸事業の実施に至るまでの経緯について説明を受けました。コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の勝部麗子氏からは、CSWが核となり様々な安心生活創造事業を展開しているとの紹介がありました。孤立を防ぎ地域社会につなぎとめる社会参加の仕組みを構築する上で、豊中モデルのように行政が地域に分け入る積極性が必要だと感じました。



もっと住みやすい街へ  
皆様の声をお聞かせください

yanaka.nobuto@yanaka.saitama.jp

電話 048-829-1812 (市議会公明)  
FAX 048-611-9102

